

若槻禮次郎コレクション —— 禮次郎とその家族 ——

若槻禮次郎(1866—1949)は松江の雑賀町で足軽の子として生まれます。苦学して上京し、帝国大学卒業後に官僚になります。禮次郎は大正から昭和初期にかけ二度の内閣総理大臣、また世界平和に貢献したロンドン海軍軍縮会議に日本の首席全権として参加します。戦争中は重臣として終戦へと導きました。

本年は明治維新 150 年にあたり、明治時代に活躍した若槻禮次郎を顕彰しその遺品を公開します。

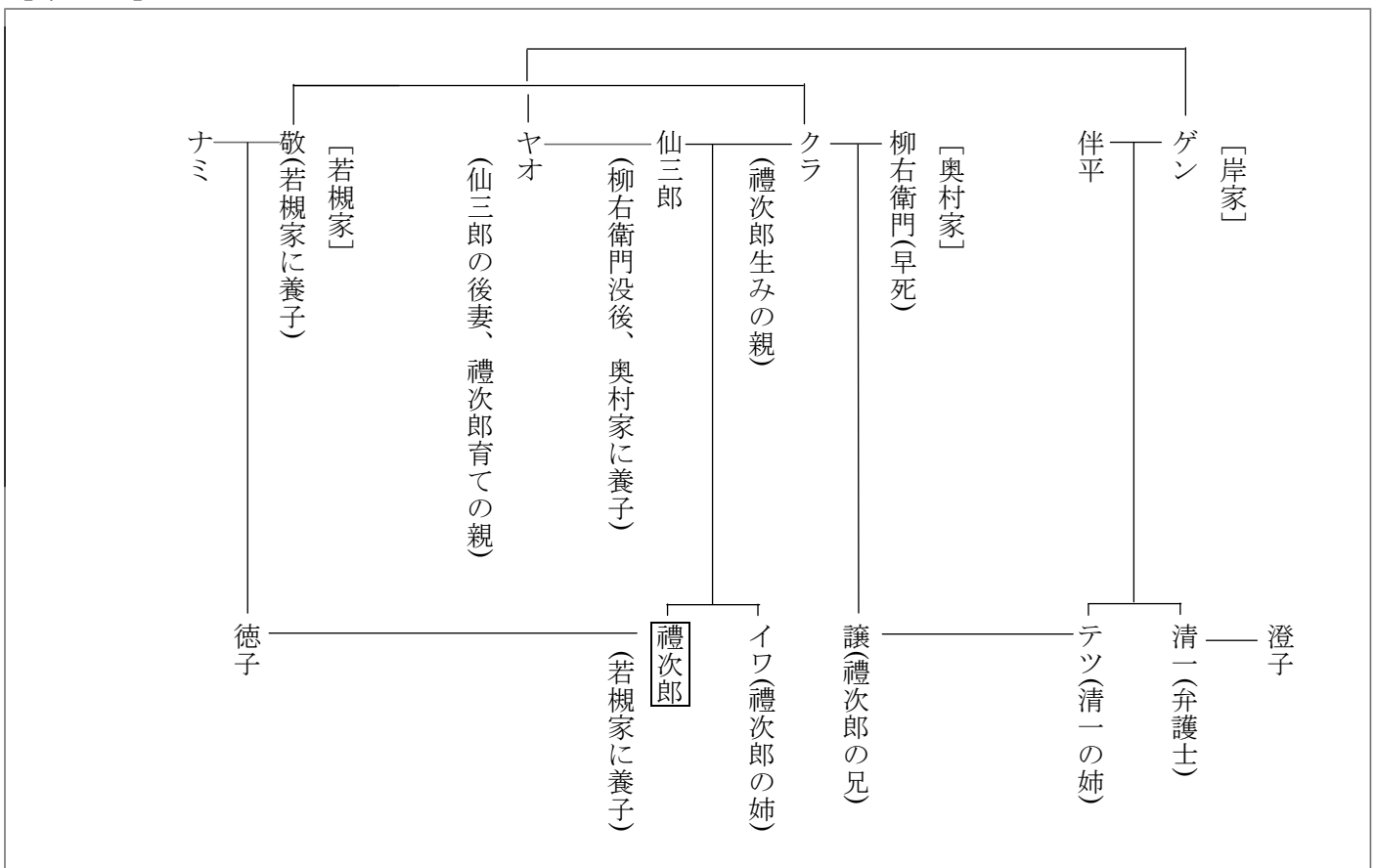
【禮次郎の家族】

禮次郎は足軽の奥村家の次男として生まれます。奥村家には柳右衛門という当主がいて、長男の讓が誕生したすぐあとに柳右衛門が死去します。当主を失った奥村家は家の断絶を免れるために、故柳右衛門の妻クラに入り婿として仙三郎を迎えました。仙三郎とクラの子が禮次郎です。

しかし、クラは禮次郎が幼いうちに死去したために、仙三郎の後添えとしてヤオを迎え、禮次郎の育ての親となりました。ヤオの姉はゲンといい、同じ雑賀町出身の弁護士岸清一の母親です。

禮次郎の叔父である若槻敬は、禮次郎の才を認め禮次郎が上京してからは金銭の支援をします。禮次郎は二十歳の時に敬の娘である若槻徳子と結婚し、若槻姓を名乗るのです。

【家系図】





若槻禮次郎肖像画

大正 15 年 (1926)

油彩、第 7 回帝展出品

石橋和訓 画

右下「Kazunori. Ishibashi 1926」

椅子にゆったりと腰掛け、足を組む若槻禮次郎を描く。禮次郎は、大正 15 年 1 月、内閣総理大臣を拝命しており、引き締まった口元から意志の強さがうかがい知れる、またまなざしは人間としてのやさしさに満ちている。

石橋 和訓 (いしばし かずのり)

[明治 9 年(1876)～昭和 3 年(1928)]

現在の出雲市佐田町に生まれる。1903 年にイギリスに渡り、伝統的肖像画の画風を身につける。帰国後は画壇とは距離を置きながら、肖像画家として活躍した。



若槻ナミ肖像画

[???～昭和 13 年(1938)]

夫の敬の没後に東京にある禮次郎家へ移り、娘の徳子とともに若槻家を支えた。

